

作成日 2024年11月 1日

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 :

製品名称 : ビネパワー

製品番号 (SDS NO) : ビネパワー-20241101

推奨用途及び使用上の制限

推奨用途 : 除菌剤 食品添加物

供給者の会社名称、住所及び電話番号

供給者の会社名称 : エンビロテックジャパン株式会社

住所 : 東京都中央区日本橋本町3-6-2 小津本館ビル

電話番号 : 03-3661-8925

FAX : 03-5695-1395

供給者の会社名称 : 全農畜産サービス株式会社

住所 : 東京都江東区冬木11番17号

電話番号 : 03-5245-4871

FAX : 03-5245-2424

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類、GHSラベル要素

GHS分類

物理化学的の危険性

引火性液体:区分 4

酸化性液体:区分 2

有機過酸化物:タイプ F

金属腐食性物質:区分 1

健康に対する有害性

急性毒性(経口):区分 4

急性毒性(経皮):区分 3

急性毒性(吸入):区分 3

皮膚腐食性/刺激性:区分 1

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性:区分 1

発がん性:区分 2

特定標的臓器毒性(単回ばく露):区分 1(血液、呼吸器系、呼吸器)

特定標的臓器毒性(反復ばく露):区分 1(呼吸器)

環境有害性

水生環境有害性 短期(急性):区分 2

水生環境有害性 長期(慢性):区分 3

(注) 記載なきGHS分類区分:区分に該当しない/分類できない

GHSラベル要素



注意喚起語:危険

危険有害性情報

可燃性液体

火災助長のおそれ:酸化性物質

熱すると火災のおそれ

金属腐食のおそれ

飲み込むと有害

皮膚に接触すると有毒
 吸入すると有毒
 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷
 重篤な眼の損傷
 発がんのおそれの疑い
 臓器の障害(血液、呼吸器系、呼吸器)
 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害(呼吸器)
 水生生物に毒性
 長期継続的影響によって水生生物に有害

注意書き

安全対策

使用前に取扱説明書を入手すること。
 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
 環境への放出を避けること。
 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
 衣類及び可燃物から遠ざけること。
 他の容器に移し替えないこと。
 涼しいところに置くこと。
 容器を接地しアースをとること。
 ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
 取扱い後は汚染個所をよく洗うこと。
 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
 指定された個人用保護具を使用すること。
 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

応急措置

火災の場合: 指定された消火剤を使用すること。
 物的被害を防止するためにも流出したものを吸収すること。
 特別な処置が必要である。
 気分が悪いときは、医師の診察/手当てを受けること。
 ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師の診察/手当てを受けること。
 直ちに医師に連絡すること。
 医師に連絡すること。
 気分が悪いときは医師に連絡すること。
 ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師に連絡すること。
 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 皮膚に付着した場合: 多量の水/適切な薬剤で洗うこと。
 皮膚(又は髪)に付着した場合: 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。
 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。
 汚染された衣類を直ちに全て脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。
 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 口をすすぐこと。
 飲み込んだ場合: 気分が悪いときは医師に連絡すること。
 飲み込んだ場合: 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

貯蔵

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
 施錠して保管すること。
 日光から遮断すること。
 指定温度以下の温度で保管すること。
 隔離して保管すること。

廃棄

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 :

混合物

成分名	CAS No.	含有量 (%)	化審法番号
酢酸	64-19-7	40 – 50	2-688
過酢酸	79-21-0	14.0 – 15.0	2-689
過酸化水素	7722-84-1	5.0 – 5.9	1-419
1-ヒドロキシエタン-1,1-ジイルビス(ホスホン酸)	2809-21-4	< 1	2-2936; 2-4162

注記:これらの値は、製品規格値ではありません。

この成分表に記載なき成分は、日本政府によるGHS分類結果一覧に収載されていません。

危険有害成分

安衛法「表示すべき有害物」該当成分

酢酸，過酸化水素，

過酢酸(令和6年4月1日施行)

安衛法「通知すべき有害物」該当成分

酢酸，過酸化水素，

過酢酸(令和6年4月1日施行)

化管法「第1種指定化学物質」該当成分

過酢酸

食品添加物としての消費期限(過酢酸 12% – 15%)

目安4年程度 (製造後18ヶ月は 過酢酸濃度 14.6% – 15%)

4. 応急措置

応急措置の記述

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

呼吸困難のときは酸素吸入を行う。

気分が悪いときは医師に連絡すること。

皮膚(又は髪)に付着した場合

直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。

汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

皮膚に付着した場合:多量の水/適切な薬剤で洗うこと。

皮膚刺激が生じた場合:医師の診察/手当てを受けること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。

その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合:医師の診察/手当てを受けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

意識のない被災者には何も飲物を与えてはならない。

直ちに医師に連絡すること。

急性症状及び遅延性症状の最も重要な徴候症状

(吸入もしくは飲み込んだ場合の症状)

呼吸器官の薬傷、口、喉、食道の薬傷

(皮膚に付着もしくは目に入った場合の症状)

皮膚の薬傷、重篤な眼の損傷

応急措置をする者の保護

救助者はゴム手袋と密閉ゴーグルなどの保護具を着用する。

医師に対する特別な注意事項

症状は遅れて発現することがある。

特別な処置が必要である。

5. 火災時の措置

消火剤**適切な消火剤**

火災の場合は霧状水、泡、粉末、炭酸ガスを使用すること。

使ってはならない消火剤

使ってはならない消火剤データなし

特有の危険有害性

加熱すると容器が爆発するおそれがある。

火災によって刺激性、有毒及び/又は腐食性のガスを発生するおそれがある。

消火を行う者への勧告**特有の消火方法**

関係者以外は安全な場所に退去させる。

霧状水により容器を冷却する。

安全に対処できるならば、製品容器を火災危険区域から移動すること。

消火作業は、可能な限り風上から行う。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

消火作業従事者は全面型陽圧の自給式呼吸保護具を着用する。

6. 漏出時の措置**人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置**

関係者以外は近づけない。

適切な保護具を着用する。

着火源を取除くとともに換気を行う。

安全に対処できる場合は漏洩を止める。

環境に対する注意事項

漏れ出した物質の下水、排水溝、低地への流出を防止する。

下水、排水中に流してはならない。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

不活性の物質(乾燥砂、土など)に吸収させて、容器に回収する。

多量に流出した場合、盛土で囲ってのち処理する。

回収物はラベルを貼った容器に密栓しないで保管する。

二次災害の防止策

物的被害を防止するためにも流出したものを吸収すること。

着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。

全ての発火源を取り除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)

7. 取扱い及び保管上の注意**取扱い****技術的対策****(取扱者のばく露防止)**

ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

(火災・爆発の防止)

熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。

衣類及び可燃物から遠ざけること。

容器を接地しアースをとること。

静電気放電に対する措置を講ずること。

(局所排気、全体換気)

排気/換気設備を設ける。

(注意事項)

皮膚に触れないようにする。

眼に入らないようにする。

安全取扱注意事項

使用前に取扱説明書を入手すること。
 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
 指定された個人用保護具を使用すること。

接触回避

塩基、還元性物質、アルミニウムなどの金属との接触を避けること。

衛生対策

眼、皮膚、衣類につけないこと。
 取扱い後は汚染個所をよく洗うこと。
 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
 汚染された衣類を直ちに全て脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
 取扱い後はよく手を洗う。

保管

安全な保管条件

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
 涼しいところに置き、日光から遮断すること。
 施錠して保管すること。
 指定温度以下の温度で保管すること。

(避けるべき保管条件)

日光から遮断すること。
 隔離して保管すること。
 直射日光、高温、着火源(裸火、火花など)を避けること。

安全な容器包装材料

他の容器に移し替えないこと。
 耐腐食性/耐腐食性内張りのある容器に保管すること。

8. ばく露防止及び保護措置

管理指標

管理濃度データなし

許容濃度

(酢酸)

日本産衛学会(1978) 10ppm; 25mg/m³

(酢酸)

ACGIH(2004) TWA: 10ppm;

STEL:15ppm (上気道及び眼刺激、肺機能)

(過酢酸)

ACGIH(2014) STEL: 0.4ppm(IFV) (上気道、眼及び皮膚刺激)

(過酸化水素)

ACGIH(1996) TWA: 1ppm (眼、上気道及び皮膚刺激)

ばく露防止

設備対策

排気/換気設備を設ける。

洗眼設備を設ける。

手洗い/洗顔設備を設ける。

保護具

呼吸用保護具

換気が不十分な場合、呼吸用保護具を着用すること。

手の保護具

保護手袋を着用する。推奨材質: 非浸透性もしくは耐化学品ゴム

眼の保護具

化学品用ゴーグルを着用する。

皮膚及び身体の保護具

顔面保護具を着用する。
保護衣を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

基本的な物理的及び化学的性質に関する情報

物理状態：液体

色：無色、透明

臭い：酢酸臭

臭いの閾値データなし

融点/凝固点データなし

沸点又は初留点データなし

沸点範囲データなし

可燃性(ガス、液体及び固体)：引火性

爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界データなし

引火点：63.9°C

自然発火点：270°C

分解温度データなし

pH：> 1 (1:10)

動粘性率：5 – 15 mm²/s(20°C)

溶解度：

水に対する溶解度：混和する

溶媒に対する溶解度データなし

n-オクタノール/水分配係数データなし

蒸気圧：33.3 hPa

密度及び/又は相対密度：1.11 g/cm³

相対ガス密度(空気=1)データなし

粒子特性：適用外

10. 安定性及び反応性

反応性

反応性データなし

化学的安定性

通常の保管条件/取扱い条件において安定である。

危険有害反応可能性

加熱や混触危険物質との接触により火災や爆発の危険をもたらす。

避けるべき条件

直射日光、高温、着火源(裸火、火花など)を避けること。

混触危険物質

還元性物質、塩基、アルミニウムなどの金属

危険有害な分解生成物

熱分解により以下の物質を生成する。

炭素酸化物、酸素

11. 有害性情報

毒性学的影響に関する情報

急性毒性

急性毒性(経口)

[製品]

区分 4, 飲み込むと有害

[成分データ]

[日本公表根拠データ]

(酢酸)

rat LD50=3310mg/kg (PATTY 5th, 2001)

(過酢酸)

rat LD50=1270mg/kg (本物質6.11%溶液, 100%換算値: 77.6mg/kg)

(OECD TG 401, GLP) (CLH Report, 2021)

(過酸化水素)

rat LD50=805mg/kg (DFGOT vol.26, 2011)

(1-ヒドロキシエタン-1,1-ジイルビス(ホスホン酸))

mouse LD50=1100mg/kg (SIAP, 2004)

急性毒性(経皮)

[製品]

区分 3, 皮膚に接触すると有毒

[成分データ]

[日本公表根拠データ]

(酢酸)

rabbit LD50=1060mg/kg (PATTY 5th, 2001)

(過酢酸)

rabbit LD50=1147mg/kg (本物質4.89%溶液) (雄: 1280mg/kg, 雌: 1040mg/kg)

[100%換算値: 56.1mg/kg (雄: 62.6mg/kg, 雌: 50.9mg/kg)] (GLP) (CLH Report, 2021)

(過酸化水素)

rabbit LD50=690mg/kg (DFGOT vol.26, 2011)

急性毒性(吸入)

[製品]

区分 3, 吸入すると有毒

[成分データ]

[日本公表根拠データ]

(過酢酸)

aerosol: rat LC50=4080mg/L/4hr (本物質4.7-5.4%水溶液) [100%過酢酸換算値: 0.2mg/L/4hr (5%時)]

(OECD TG 403, GLP) (CLH Report, 2021)

(過酸化水素)

mist: mouse LC50=0.46-1.00mg/L/4hr (DFGOT vol.26, 2011)

vapor: rat LC50=1438ppmV/4hr (DFGOT vol.26, 2011)

局所効果

皮膚腐食性/刺激性

[製品]

区分 1, 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷

[成分データ]

[日本公表根拠データ]

(酢酸)

ラビット/モルモット 重度の熱傷 (PATTY 5th, 2001 et al)

(過酢酸)

ラビット 腐食性影響 (AICIS IMAP, 2013 et al)

(過酸化水素)

ラビット 腐食性 (EU-RAR, 2003 et al)

(1-ヒドロキシエタン-1,1-ジイルビス(ホスホン酸))

(飽和水溶液) pH<2 (IUCLID, 2000)

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

[製品]

区分 1, 重篤な眼の損傷

[成分データ]

[日本公表根拠データ]

(酢酸)

ラビット 永続的角膜損傷 (IUCLID, 2000 et al)

(過酢酸)

ラビット 角膜混濁を伴う重度の炎症 (MAK(DFG), 1996)

(過酸化水素)

動物 腐食性 (EU-RAR, 2003)

(1-ヒドロキシエタン-1,1-ジイルビス(ホスホン酸))

(飽和水溶液) pH<2 (IUCLID, 2000)

呼吸器感作性又は皮膚感作性

呼吸器感作性

[製品]

データ不足のため、分類できない。

[成分データ]

データなし

皮膚感作性

[製品]

データ不足のため、分類できない。

[成分データ]

データなし

生殖細胞変異原性

[製品]

データ不足のため、分類できない。

[成分データ]

データなし

発がん性

[製品]

区分 2, 発がんのおそれの疑い

[成分データ]

[日本公表根拠データ]

(過酸化水素)

cat.2; ACGIH A3 (ACGIH 7th, 2001)

[IARC]

(過酸化水素)

Group 3 : ヒトに対する発がん性については分類できない

[ACGIH]

(過酢酸)

A4(2014) : ヒト発がん性因子として分類できない

(過酸化水素)

A3(1996) : 確認された動物発がん性因子であるが、ヒトとの関連は不明

生殖毒性

[製品]

データ不足のため、分類できない。

[成分データ]

データなし

特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

[製品]

区分 1, 臓器の障害

[成分データ]

[区分1]

[日本公表根拠データ]

(酢酸)

血液、呼吸器系 (ACGIH, 2004)

(過酢酸)

呼吸器 (SIAR, 2008)

(過酸化水素)

呼吸器 (ACGIH, 2001; EU-RAR, 2003)
 特定標的臓器毒性(反復ばく露)
 [製品]
 区分 1, 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害
 [成分データ]
 [区分1]
 [日本公表根拠データ]
 (過酢酸)
 呼吸器 (DFG MAK, 1996)
 (過酸化水素)
 呼吸器 (EU-RAR, 2003)
 誤えん有害性
 [製品]
 データ不足のため、分類できない。
 [成分データ]
 データなし

12. 環境影響情報
 生態毒性
 水生環境有害性
 [製品]
 区分 2, 水生生物に毒性
 区分 3, 長期継続的影響によって水生生物に有害
 [成分データ]
 水生環境有害性 短期(急性)
 [日本公表根拠データ]
 (酢酸)
 甲殻類 (オオミジンコ) EC50=65mg/L/48hr (Aquire, 2010)
 (過酢酸)
 藻類 (ムレミカヅキモ) ErC50=0.18mg/L/120hr; 甲殻類 (オオミジンコ) EC50=0.48mg/L/48hr (SIDS, 2008)
 (過酸化水素)
 藻類 (ニッチア) EC50=0.85mg/L/72hr (EU-RAR, 2003)
 水生環境有害性 長期(慢性)
 [日本公表根拠データ]
 (過酢酸)
 藻類 (ムレミカヅキモ) NOErC=0.084mg/L/72hr (SIDS Dossier, 2008)
 水溶解度
 (酢酸)
 混和する (ICSC, 2010)
 (過酢酸)
 混和する (ICSC, 2000)
 (過酸化水素)
 混和する (ICSC, 2000)
 (1-ヒドロキシエタン-1,1-ジイルビス(ホスホン酸))
 69 g/100 ml (PHYSPROP_DB, 2012)
 残留性・分解性
 [成分データ]
 (酢酸)
 BODによる分解度: 74% (既存点検)
 (過酢酸)
 急速分解性あり (類似化学物質のBODによる分解度 : 74% (METI既存点検結果, 2012))
 (過酸化水素)
 急速分解性あり (EU-RAR, 2003)

生体蓄積性

[成分データ]

(酢酸)

log Pow=-0.17 (PHYSPROP DB, 2005)

(過酢酸)

log Kow=-1.07 (KOWWIN v1.68)

(過酸化水素)

log Pow=-1.36 (ICSC, 2000)

土壤中の移動性

土壤中の移動性データなし

他の有害影響

オゾン層への有害性データなし

13. 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報
廃棄物の処理方法

環境への放出を避けること。

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

承認された廃棄物集積場で処理する。

下水、地中、水中への廃棄を行ってはならない。

汚染容器及び包装

内容物を使い切ってから、容器を廃棄すること。

14. 輸送上の注意

国連番号、国連分類

国連番号またはID番号 : 3109

正式輸送名 :

有機過酸化物、タイプF、液体(過酢酸)

分類または区分 : 5.2

容器等級 : 該当しない

指針番号: 145

特別規定番号 : 122; 274

IMDG Code (国際海上危険物規程)

国連番号またはID番号 : 3109

正式輸送名 :

有機過酸化物、タイプF、液体(過酢酸)

分類または区分 : 5.2

容器等級 : 該当しない

特別規定番号 : 122; 274

IATA (航空危険物規則書)

国連番号またはID番号 : 3109

正式輸送名 :

有機過酸化物、タイプF、液体(過酢酸)

分類または区分 : 5.2

危険性ラベル : Organic peroxide & keep away from heat

容器等級 : 該当しない

特別規定番号 : A20; A150; A802

環境有害性

海洋汚染物質 (該当/非該当) : 非該当

特別の安全対策

特別の安全対策データなし

MARPOL 73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送される液体物質

有害液体物質(乙類)
 酢酸
 MARPOL条約附属書V – HME(海洋環境に有害)
 IMO規則に従うばら積みでの海上輸送は適用されない。
 国内規制がある場合の規制情報
 船舶安全法
 酸化性物質類 有機過酸化物 分類5 区分5.2
 航空法
 酸化性物質類 有機過酸化物 分類5 区分5.2

15. 適用法令
 当該製品に特有の安全、健康及び環境に関する規則/法令
 毒物及び劇物取締法
 毒物及び劇物取締法に該当しない。
 労働安全衛生法
 特化則に該当しない
 有機則に該当しない
 名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物
 名称表示危険/有害物
 酢酸(別表第9の176); 過酸化水素(別表第9の126);
 過酢酸(別表第9の125の2,令和6年4月1日施行)
 名称通知危険/有害物
 酢酸(別表第9の176); 過酸化水素(別表第9の126);
 過酢酸(別表第9の125の2,令和6年4月1日施行)
 別表第1 危険物 (第1条、第6条、第9条の3関係)
 危険物・引火性の物 (30°C <= 引火点 < 65°C)
 腐食性液体(規則第326条)
 酢酸
 化学物質管理促進(PRTR)法
 第1種指定化学物質
 過酢酸(15%)(管理番号603)
 労働基準法
 疾病化学物質(規則別表第1の2第4号1)
 過酸化水素
 消防法
 危険物
 第4類 引火性液体第2石油類水溶性液体 危険等級 III(指定数量 2,000L)
 化審法
 優先評価化学物質
 過酢酸(政令番号92 人健康影響/生態影響);
 1-ヒドロキシエタン-1,1-ジイルビス(ホスホン酸)(政令番号217 生態影響)
 水質汚濁防止法
 指定物質
 過酸化水素
 法令番号 4

16. その他の情報
 参照文献及び情報源
 Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, UN
 Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 22nd edit., 2021 UN
 IMDG Code, 2020 Edition (Incorporating Amendment 40-20)
 IATA 航空危険物規則書 第64版 (2023年)

2020 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK (US DOT)

2023 TLVs and BEIs. (ACGIH)

JIS Z 7252 : 2019

JIS Z 7253 : 2019

2022 許容濃度等の勧告 (日本産業衛生学会)

厚生労働省 基安化発0111第1号(令和4年1月11日)

Supplier's data/information

GESTIS-Stoffdatenbank

Pub Chem (OPEN CHEMISTRY DATABASE)

責任の限定について

本記載内容は、現時点で入手できる資料、情報データに基づいて作成しており、新しい知見によって改訂される事があります。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いの場合には十分な安全対策を実施の上でご利用ください。

ここに記載したGHS分類区分の算定根拠は現時点における日本公表データ (NITE 令和3年度(2021年度))です。